

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-1 道路網の整備と維持管理

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 道路建設課長 井田 悦男 電話番号 0852-22-6456

事務事業の名称	地域間交流の強化・拡大のための幹線道路の整備	
目的	(1) 対象	県民・道路利用者
	(2) 意図	生活圏中心都市への移動時間、及び中山間地域における東西間の移動時間を短縮し、移動圏域を拡大します。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 生活圏中心都市への時間距離改善のため幹線道路を整備する。 中山間地域における東西移動の時間距離改善のため幹線道路を整備する。 	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	広域市町村圏中心地への30分アクセス圏域の人口比	目標値	80.90	80.90	
	式・定義	広域市町村圏中心地へ30分で行ける人口の合計/県人口	実績値	80.90	80.90	82.30		%
			達成率	100.00	100.00	100.00		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値	0.00	0.00				
式・定義		実績値	0.00	0.00				
		達成率	0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	4,426,045	4,629,551
うち一般財源(千円)	328,954	314,132

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成26年度は国道375号湯抱バイパス、県道浜田八重可部線坂本工区の2箇所が完成供用した。
 ・山陰道の仁摩温泉津道路（仁摩・石見銀山IC～湯里IC間）、浜田三隅道路（原井IC～西村IC間）の開通が30分アクセス圏域の拡大に効果大
 ※人口比算定にあたり、基礎データを「平成22年国勢調査地域メッシュ統計」に見直した結果、当初数値より増加した。（従前は平成17年国勢調査地域メッシュ統計）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

幹線道路が予定どおり完成したことから、生活圏中心都市への30分アクセス圏域が拡大した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

未整備区間については、大規模な構造物の建設を伴うなど大きな事業費が必要であるが、予算の確保が困難な状況となっている。

②困っている状況が発生している「原因」

財源となる国の交付金については、個別の事業毎の配分ではなく、大きな枠毎での配分となっており、特別な需要に応じた要求が反映されにくい状況となっていることに加え、近年、既存施設の老朽化対策や通学路の安全対策の分野に厚く配分され、通常の道路改良への配分は低く抑えられる状況となっている。

③原因を解消するための「課題」

地域の実情に応じた国費の配分

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

国に対し地域の実情に応じた予算が配分されるよう丁寧に状況を説明するとともに、国の予算配分方針等を的確に把握し、工夫しながら、必要な予算が配分されるよう要望していく。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）